

●長崎県公立大学法人 令和5年度 第3回理事会 議事録

日時	令和5年6月15日（木）14：00～15：20
場所	シーボルト校特別会議室
出席者	稲永理事長、浅田副理事長(学長)、井上専務理事(事務局長)、森理事
配付資料	<p>【資料1】 令和4事業年度 事業報告書（案）</p> <p>【資料2】 令和4事業年度 財務諸表（案）</p> <p>【資料3】 令和4事業年度 財務諸表（案）の概要</p> <p>【資料4】 令和4事業年度 決算報告書（案）</p> <p>【資料5】 当期総利益について</p> <p>【資料6】 長崎県立大学の現況について</p> <p>【資料7】 長崎県立大学関連の新聞記事</p>
議事	<p>【審議事項1】 令和4年度決算案について</p> <p>○事務局から資料1～5に基づき、事業報告書、財務諸表及び決算報告書案について説明があり、事務局案のとおりとすることで承認された。</p> <p>監事・会計監査人合同会議に提出したのち、6月28日開催の理事会承認後、6月末までに県へ提出する旨、事務局より説明があった。</p> <p>（意見・質問等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1のp14「本学一般選抜の県内志願者が占める割合が25%」とは。 ⇒県内を志願する受験生のうち、1/4が長崎県立大学を志望しているという趣旨。本学に入学した学生の県内生と県外生の割合はおよそ半々であるが、県内就職率は3割程度。ここを高めないといけない。 ・企業側は人材確保が大きな課題。商工会議所の立場から大学との連携強化を一層お願いしたい。 ⇒優秀な人材を県内に定着させるため、学生には県内企業の情報を積極的に提供している。インターンシップ、企業訪問、学内での就職説明会等、学生が県内事業者を知る機会を増やしていきたい。 ・知事、長崎労働局長から商工会議所あてに、若者が働きやすい職場づくりを進めるよう要望書をいただいている。 ・資料4の決算報告書中、教育研究経費が前年度比97百万減となっているのは、教育の質が低下しているという事はないか。 ⇒予算の効率的な執行や入札による経費等の減によるもの。論文発表数や競争的研究はむしろ伸びている。

【報告事項1】長崎県立大学の現況について

○事務局から資料6に基づき、職員・学生数、就職状況、県内就職率等の現況について説明があった。

(意見・質問等)

- 本学の事務職員数について、全国公立大学100校中、職員数の少なさは6番目。1名の職員が広範囲の業務に携わっていて、夜遅くまで仕事をしており、非常に過酷な労働環境となっている。
一方、県の財政状況は厳しいため、大学職員数の増員は難しい状況。
- また、教員のST比(教員1人当たりの学生数)は、長崎大学の2倍。きめ細かい教育を目指しているが、物理的な制限がある。
- 大学のIR(Institutional Research)について、佐賀大学の取り組みが進んでいる。一方、体制自体組めない大学もある。本学のIR体制について、規模、学部学科の構成等、類似団体比較し、よいところは伸ばし、遅れているところについては整理する必要がある。
大学は学生へのサービス機関、サービスが悪いところには学生は来ない。

【その他】

- 長崎県警のサイバーセキュリティ対策として、専門的な人材の育成が重要。
長崎県立大学でセキュリティ分野の人材を育成いただいていることは心強い。
- 九経調地域研究助成事業「DXによる地域活性化に関する調査研究」に長崎県立大学の大学院生が採択されている。通常、複数回の応募で採択されていることが多いが、初回の応募で採択されている本学生は非常に優秀である。